

第六次南風原町総合計画 第3回 審議会 議事要旨

1 開催日時

令和8年8月19日(水) 14:00~16:00

2 開催場所

南風原町役場 3階 庁議室

3 出席者

区分	名前	活動、所属等	分野
会長	島袋 隆志	知識経験者(大学教授)	住民自治・教育
副会長	小井土 恵美	知識経験者	産業・都市基盤
委員	桃原 一彦	知識経験者(大学教授)	住民自治・教育
	敏夫	知識経験者	産業・都市基盤
	柴山 睦子	知識経験者	教育
	諸見里 元	知識経験者	産業・観光・文化
	外間 啓子	知識経験者	教育
	宮城 康	知識経験者	農業・産業
	親泊 明美	知識経験者	教育
	金城 敬宝	知識経験者	都市基盤
	金城 京一郎	町商工会 会長	商工・観光
	大城 孝雄	琉球紺事業協同組合 理事長	産業・文化
	島袋 康史	社会福祉協議会 事務局長	福祉
	當眞 めぐみ	宮平自治会 会長	住民自治
	新垣 圭一	町職員	行政
事務局	企画財政課 企画統計班		
委託事業者	株式会社エコパル舎		

4 次第

1.開会

2.議事

(1)第 2 回審議会の確認事項について

(2)パブリックコメントの報告

(3)まちづくり目標2 学び合い、育み合い、支え合い、自分らしく暮らせるまち
(教育・文化・健康・福祉)

3.その他

(1)意見書に記載する事項(案)について

4.閉会

5 会議資料

○資料－8 第 3 回審議会 次第

○資料－9 修正箇所一覧表

○資料－10 パブリックコメントに対する回答案

○資料－11 事前質問回答表

○資料－12 第六次南風原町総合計画素案(令和8年8月時点)

○資料－13 意見書に記載する事項(案)

○追加資料－1 第 2 回審議会の議事要旨

6 議事内容

1.開会

○事務局より開会のあいさつを行った。

2.議題

(1)第 2 回審議会の確認事項について

○事務局より資料－9の説明を行った。

○質疑応答

特に無し。

(2)パブリックコメントの報告

○事務局より資料－10の説明を行った。

○質疑応答

特に無し。

(3)まちづくり目標2 学び合い、育み合い、支え合い、自分らしく暮らせるまち

(教育・文化・健康・福祉)

○事務局より資料－11の説明を行った。

○質疑応答

特に無し。

○事務局より資料－12の説明を行った。

○質疑応答

(教育・文化)P34～40

委員:P36【施策の展開⑤】にて、「地域学校協働活動(学校応援隊はえばる)」とあるが、どのような活動なのか伺いたい。

教育部長:学校が支援を希望する授業等について、地域の方々を「学校支援ボランティア」として紹介している。地域の方々の経験や技術をこどもたちのために提示していただき、豊かな教育環境を整えることをめざしている。

委員:とりまとめはどこが行っているのか。

教育部長:生涯学習文化課にて行っている。

委員:P35【現状】にある「学校運営協議会」とは別のものになるのか。

教育部長:「学校運営協議会」は「コミュニティ・スクール」である。令和6年度から7年度にかけて町内全小・中学校で設置されている。

委員:P36【施策の展開②】にて、「個別最適な学びと協働的な学び」の充実」とあるが、南風原町ではどのような取組を行っているか伺いたい。

教育部長:南風原町としては、リーディングスキルテストの結果を分析したうえで、指導主事から各学校へアドバイスを行ったり、研修会等を開催する取組を行っている。

委員:「個別最適な学びと協働的な学び」については、糸満市で盛んに行われている。情報として提供する。様々な質のこどもがいるのでその子に合った授業の進め方や、興味・関心を持っているものを教師が応援・支援するといった取組が「個別最適な学び」となる。ペア、グループ、地域の方々と一緒になって課題を解決するといった取組が「協働的な学び」となる。教育委員会として力を入れて取組を行っていただきたい。

委員:休職される教員多いと聞くと、教員に対するサポートをどのようなことを行っているのか伺いたい。

教育部長:負担軽減として学習支援員やALT(外国人英語指導助手)、特別支援教育支援員の配置を行っている。

委員:P36【施策の展開②】に教育DXだけでなく、「教職員の指導力向上や校内研修の充実を図るとともに、教育DXを活用した授業改善を推進します。」とすると教員の支援に繋がると思われる。

委員:P36【施策の展開①】にて、「PTA活動や地域活動」とあるが、現在はどのような活動を行っているのか伺いたい。

教育部長：PTA活動について弱くなっている現状がある。PTA活動が活発ではないところに対し、助言等を行うような取組を行いたいと思う。

委員：P38～39町立図書館について、こどもたちにとって勉強する場所になっていない。本がある環境で勉強ができる状況があるとリーディングスキルにも繋がると思うので、町立図書館が利活用できるようになれば良いと思う。

教育部長：現在、利用されている方々の負担にならない形で学習スペースを設けられないか検討を行っている。

委員：P35【現状1つ目の○】について、「こどもたちの入園・入学が円滑に行われるよう」とあるが、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を進めるためにといった解釈で良いのか伺いたい。「入園・入学」は保護者視点での言葉の解釈となるので、町の基本方針としては教育の円滑な接続が進められるような内容かと思われる。

事務局：担当課と確認して修正等を行いたい。

(健康・福祉)P41～47

委員：P46【課題2つ目の○】について、貧困家庭や不登校児に対してどのような対応しているのか伺いたい。

民生部長：人数について把握しているが、年々増加傾向にある。数字を改善するために行政は動くところがあるが、人数が増えていくといった視点が改善していないといった視点もあるが、埋もれているものを発見しているといった視点がある。学校現場や民生委員・児童委員からの情報を基に対応していったものをカウントしている。対応については、本町においては「拠点型の居場所」を設置しており、専門家が入って居場所を利用するにあたって状況を踏まえてどの段階までもっていくかを随時居場所での変化を確認している。「若年妊産婦の居場所」や、令和7年度からは中・高校生や20代前半までをターゲットとした「若者の居場所」といった三種の居場所がある。不登校児などについては「若者の居場所」に主に入ってくる。児童の不登校はこどもの居場所として学校型で学校・保護者との連携が重要となるが、中・高校生となると不登校じゃない状態にするのが正解ではないので、本人の希望などを聞き取りながら就職を一つのポイントとしている。地元の商工会などとの連携が重要だと考え、柱立てて対応を行っている。

委員：「貧困」は何を基準としているのか。また、対策としてどのような事業を行っているのか伺いたい。

民生部長：一般的には世帯所得を基準として貧困対策事業を行うが、本町においては、「孤立しているか」に注目している。経済状態が苦しく、生活保護の手前でも普通に暮らしている方については関与しないが、ある程度の収入があったとしても何らかの課題を抱えており、行政に繋がらずに孤立している状態に注目している。一概に所得や扶養数だけで決めておらず、関係機関から気になるとの情報を基に行っている。

委員：民生委員が不足していると聞くと、そのような状況が続くそうか伺いたい。

民生部長：本町の民生委員は増えてきているが、定数には至っていない。しかし、県の平均を

超える状況にある。地域からの情報としては、学校からの情報が一番多い。気になる世帯については、本人が接続を拒んでいる状態にあるので、そこに入るには何らかの「きっかけ」が必要となる。話の中にキーワードを取って保護者との面会の機会を学校側が取った方が良いのか、未就学児であれば健診の場において一度接触を試みる。

委員：P43～44虐待やDVについて、対策として考えていることはあるか伺いたい。

民生部長：相談は窓口にて対応している。行政的な話をする、町村には福祉事務所が無く、市役所には福祉事務所がある。例えば、生活保護の相談は市役所に行けば解決するが、町村役場は生活保護の窓口は無く、最終的な権限がある福祉事務所（南風原町は南部福祉事務所）にて対応を行う。女性政策については福祉事務所が主幹である。

委員：直接の所管が無いので、福祉事務所に繋ぐようなイメージなのか。

民生部長：住民から相談があった際に、すぐに福祉事務所に繋げるといったことはしない。しかし、女性相談については役場で聞かずに、会話をしながら行政事務の権限を持つ福祉事務所に繋げた方が良い場合もある。暴力事案で警察に繋げる際も同様である。連携が重要であると考えます。

委員：総合計画なので、広い視点から見た計画であった方が細かいことをする際は動きやすい部分もあるので、P45【施策の展開③】の「子育てサロン」は事業名なので削除しても良いと考える。

事務局：「子育てサロン」を削除する。

委員：P47【目標値】「健康寿命」について、現状値から目標値が横ばいなのは理由があるのか伺いたい。

民生部長：平均寿命は延びているが、健康でいきいきと暮らす部分については下がってきている現状なので、現状を維持させるという意味合いで数値設定を行っている。

委員：下がった理由を伺いたい。

民生部長：食生活の変化やフレイル（筋力や認知機能低下、社会との繋がりが薄くなる）の状況が背景にある。

委員：健康寿命の基準を伺いたい。

民生部長：沖縄県で取りまとめた数値を引用している。また、数値については国保連合会にて算出式に基づいて出している。

3. その他

(1)意見書に記載する事項(案)について

○事務局より資料－13の説明を行った

○事務局より第4回審議会の開催の通知を行った。

4. 閉会

○事務局より閉会のあいさつを行った。

以上

第3回審議会におけるご意見と考え方

No.	ページ	意見	考え方
1	P35	【現状1つ目の○】について、「こどもたちの入園・入学が円滑に行われるよう」とあるが、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を進めるためにといった解釈で良いのか伺いたい。「入園・入学」は保護者視点での言葉の解釈となるので、町の基本方針としては教育の円滑な接続が進められるような内容かと思われる。	担当課と確認して修正等を行う。
2	P36	【施策の展開①】にて、「PTA活動や地域活動」とあるが、現在はどうのような活動を行っているのか伺いたい。	PTA活動について弱くなっている現状がある。PTA活動が活発ではないところに対し、助言等を行うような取組を行いたいと思う。
3	P36	【施策の展開②】にて、「「個別最適な学びと協働的な学び」の充実」とあるが、南風原町ではどのような取組を行っているのか伺いたい。	南風原町としては、リーディングスキルテストの結果を分析したうえで、指導主事から各学校へアドバイスを行ったり、研修会等を開催する取組を行っている。
4	P36	休職される教員が多いと聞か、教員に対するサポートをどのようなことを行っているのか伺いたい。	負担軽減として学習支援員やALT(外国人英語指導助手)、特別支援教育支援員の配置を行っている。
5	P36	【施策の展開②】に教育DXだけでなく、「教職員の指導力向上や校内研修の充実を図るとともに、教育DXを活用した授業改善を推進します。」とすると教員の支援に繋がるとと思われる。	担当課と確認して修正等を行う。
6	P36	【施策の展開⑤】にて、「地域学校協働活動(学校応援隊はえばる)」とあるが、どのような活動なのか伺いたい。	学校が支援を希望する授業等について、地域の方々を「学校支援ボランティア」として紹介している。地域の方々の経験や技術をこどもたちのために提示していただき、豊かな教育環境を整えることをめざしている。
7	P38 ～39	町立図書館について、こどもたちにとって勉強する場所になっていない。本	現在、利用されている方々の負担にならない形で学習スペースを設けられな

		がある環境で勉強ができる状況があるとリーディングスキルにも繋がると思うので、町立図書館が利活用できるようになれば良いと思う。	いか検討を行っている。
8	P43 ~44	虐待やDVについて、対策として考えていることはあるか伺いたい。 直接の所管が無いので、福祉事務所に繋ぐようなイメージなのか。	相談は窓口にて対応している。行政的な話をすると、町村には福祉事務所がなく、市役所には福祉事務所がある。例えば、生活保護の相談は市役所に行けば解決するが、町村役場は生活保護の窓口は無く、最終的な権限がある福祉事務所（南風原町は南部福祉事務所）にて対応を行う。女性政策については福祉事務所が主幹である。 住民から相談があった際に、すぐに福祉事務所に繋げるといったことはしない。しかし、女性相談については役場で聞かずに、会話をしながら行政事務の権限を持つ福祉事務所に繋げた方が良い場合もある。暴力事案で警察に繋げる際も同様である。連携が重要であるとする。
9	P45	【施策の展開③】の「子育てサロン」は事業名なので削除しても良いと考える。	「子育てサロン」を削除する。
10	P46	【課題2つ目の○】について、貧困家庭や不登校児に対してどのような対応しているのか伺いたい。	対応については、本町においては「拠点型の居場所」を設置しており、専門家が入って居場所を利用するにあたって状況を踏まえてどの段階までもっていくかを随時居場所での変化を確認している。「若年妊産婦の居場所」や、令和7年度からは中・高校生や20代前半までをターゲットとした「若者の居場所」といった三種の居場所がある。不登校児などについては「若者の居場所」に主に入ってくる。児童の不登校はこどもの居場所として学校型で学

			校・保護者との連携が重要となるが、中・高校生となると不登校じゃない状態にするのが正解ではないので、本人の希望などを聞き取りながら就職を一つのポイントとしている。地元の商工会などとの連携が重要だと考え、柱立てて対応を行っている。
11	P46	「貧困」は何を基準としているのか。また、対策としてどのような事業を行っているのか伺いたい。	一般的には世帯所得を基準として貧困対策事業を行うが、本町においては、「孤立しているか」に注目している。経済状態が苦しく、生活保護の手前でも普通に暮らしている方については関与しないが、ある程度の収入があったとしても何らかの課題を抱えており、行政に繋がらずに孤立している状態に注目している。一概に所得や扶養数だけで決めておらず、関係機関から気になるとの情報を基に行っている。 気になる世帯については、本人が接続を拒んでいる状態にあるので、そこに入るには何らかの「きっかけ」が必要となる。話の中にキーワードを取って保護者との面会の機会を学校側が取った方が良いのか、未就学児であれば健診の場において一度接触を試みる。
12	P47	【目標値】「健康寿命」について、現状値から目標値が横ばいなのは理由があるのか伺いたい。 下がった理由を伺いたい。 健康寿命の基準を伺いたい。	平均寿命は延びているが、健康でいきいきと暮らす部分については下がってきている現状なので、現状を維持させるという意味合いで数値設定を行っている。 食生活の変化やフレイル(筋力や認知機能低下、社会との繋がりが薄くなる)の状態が背景にある。 沖縄県で取りまとめた数値を引用して

			いる。また、数値については国保連合 会にて算出式に基づいて出している。
--	--	--	--

